

岡山県の地震

令和5年(2023年)2月

目 次

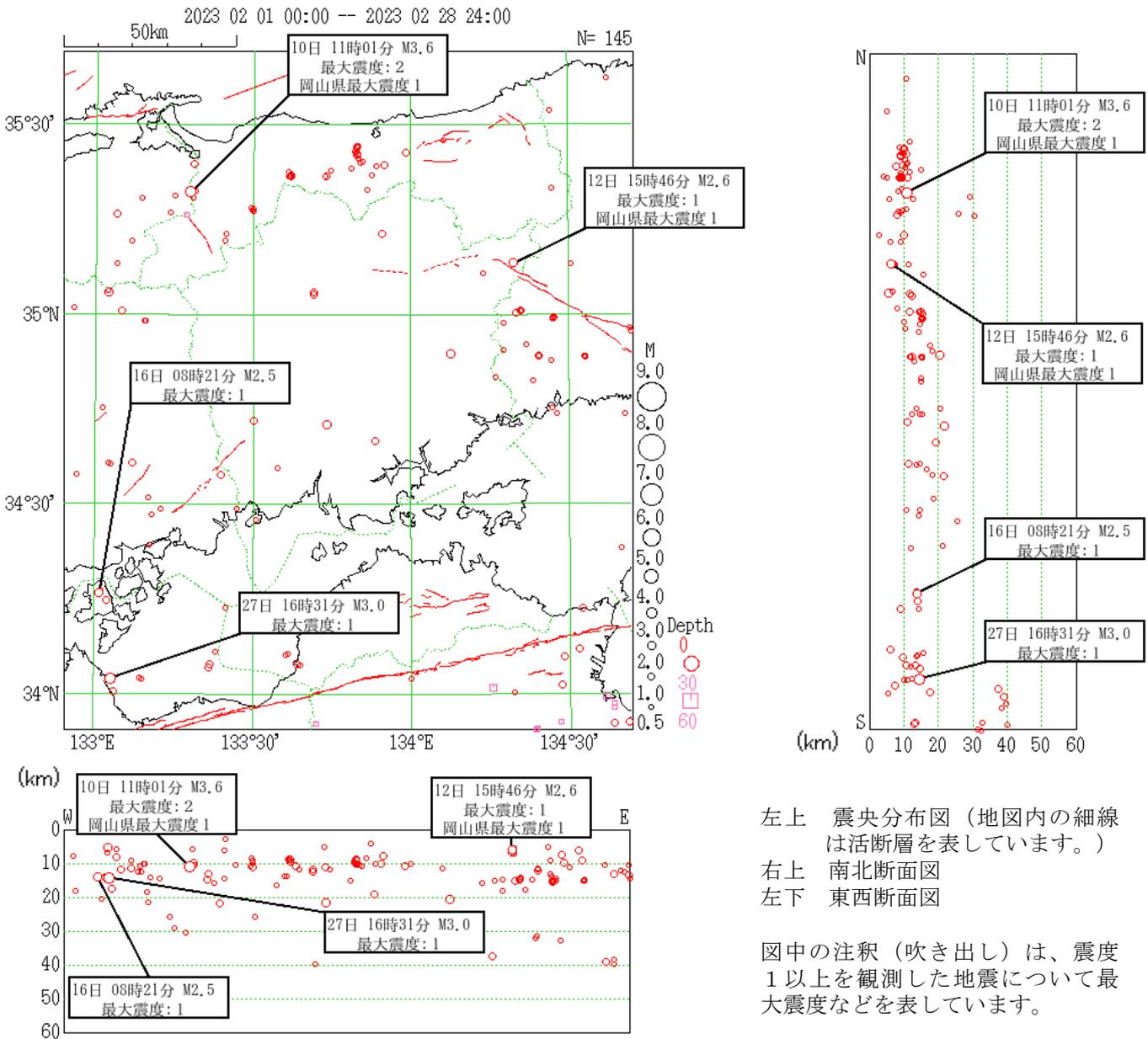
○岡山県及びその周辺の地震活動（2月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2, 3
○地震防災メモ No.206	
知って備える ー過去の大地震からー	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(2月)

震央分布図及び断面図



概況

2月の概況

- ・上図の範囲内で2月に震度1以上の揺れが観測された地震は4回(前月:1回)でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は2月中に2回(前月:0回)あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は2回、範囲外の地震は0回でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(2月)

2023年02月10日11時01分	鳥取県西部	35° 19.2' N 133° 18.0' E	11km	M3.6
----- 地点震度 -----				
岡山県 震度 1: 新見市哲西町矢田*, 新見市千屋実*				

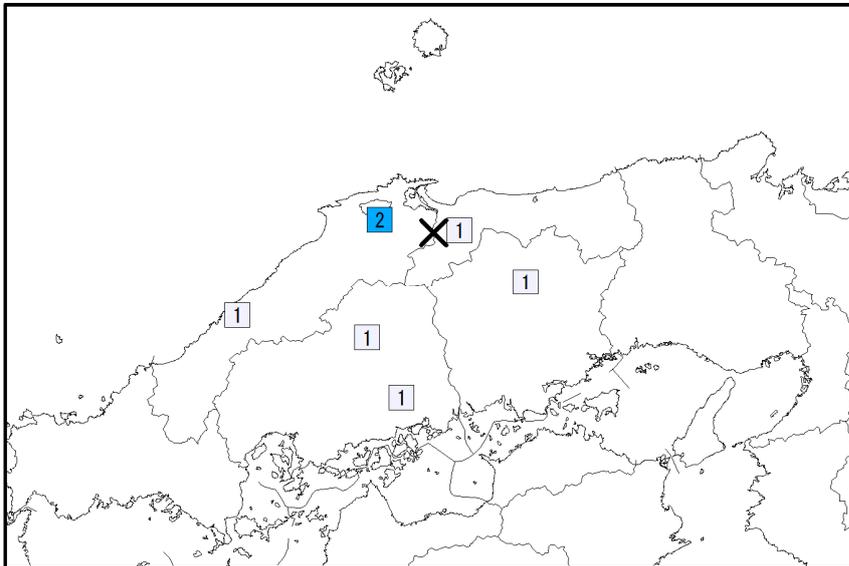
2023年02月12日15時46分	岡山県北部	35° 08.0' N 134° 19.5' E	6km	M2.6
----- 地点震度 -----				
岡山県 震度 1: 西粟倉村影石*, 美作市古町*, 美作市太田*				

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
 なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。
 なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

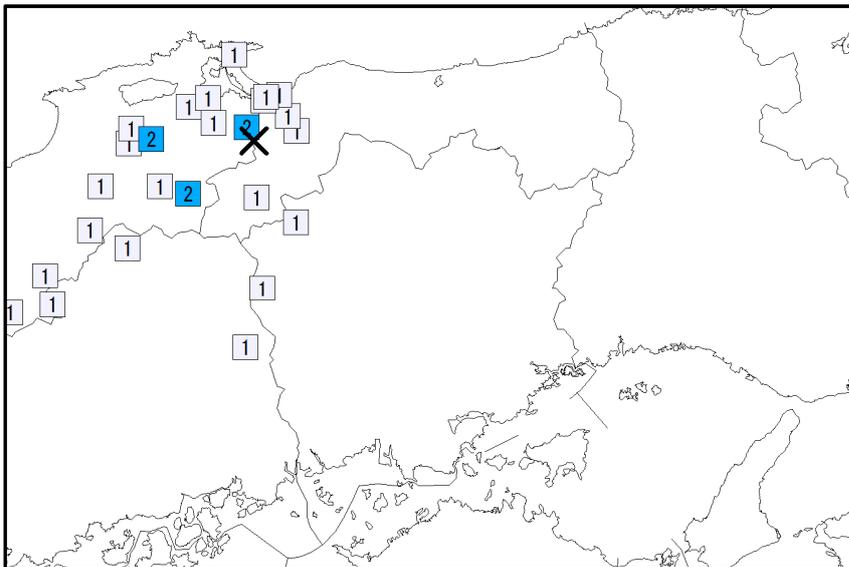
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(2月)

2023年2月10日11時01分 鳥取県西部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央

凡例	
7	震度7
6+	震度6強
6-	震度6弱
5+	震度5強
5-	震度5弱
4	震度4
3	震度3
2	震度2
1	震度1

<地震の概要>

10日11時01分 鳥取県西部の地震(深さ11km、M3.6)により、鳥根県安来市・雲南市・奥出雲町で震度2を観測したほか、鳥取県、鳥根県、岡山県、広島県で震度1を観測しました。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(2月:続き)

2023年2月12日15時46分 岡山県北部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央	
凡例	
7	震度7
6+	震度6強
6-	震度6弱
5+	震度5強
5-	震度5弱
4	震度4
3	震度3
2	震度2
1	震度1

<地震の概要>

12日15時46分 岡山県北部の地震(深さ6km、M2.6)により、岡山県西粟倉村・美作市で震度1を観測しました。

知って備える — 過去の大地震から —

関東大震災から100年>

2023年は、甚大な被害を生じた「関東大震災」から100年目にあたります。この地震は1923年（大正12年）9月1日の11時58分に発生し、地震の規模（マグニチュード：M）は、7.9でした。

関東地方の5官署で、当時の最大震度である震度6を観測しました（家屋の倒壊状況などから相模湾沿岸地域や房総半島南端では、現在の震度7相当の揺れであったと推定されています）。強い揺れが昼食の時間と重なった事から多くの火災が発生し、さらに強風により被害が拡大して、非常に多くの犠牲者を生じました。また、津波、土砂災害なども発生し、この地震による甚大な災害は「関東大震災」と呼ばれ、9月1日が『防災の日』になるきっかけの1つとなっています。

地震や被害の詳しい内容、防災の備えなどについて、以下の特設サイト等を参照願います。

気象庁ホームページに「関東大震災から100年」特設サイトがあります
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1923_09_01_kantoujishin/index.html



内閣府ホームページの特設サイトがあります。あわせてご覧ください
<https://www.bousai.go.jp/kantou100/index.html>



鳥取地震から80年>

80年前の1943年（昭和18年）9月10日、鳥取市付近を震源域としてM7.2の地震が発生しました。この地震は、「平成28年（2016年）熊本地震」や「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」と同じタイプの陸域の浅い地震で、「鹿野-吉岡断層」の活動により発生した

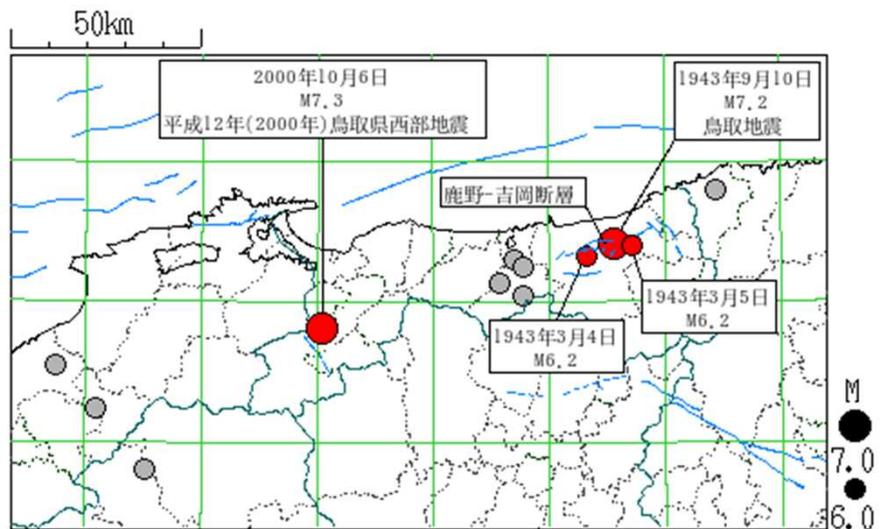
ものです。鳥取市で震度6を観測しました（岡山市では震度5、津山市では震度4を観測）。

被害は軟弱な地盤が広がる鳥取平野に集中していて、死者1,083人、負傷者3,259人、家屋全壊7,485棟などの被害が生じました（宇佐美ほか、2013）。

本震後数日間は、体を感じる余震が1日に100回以上発生しました（浅い地震の時の特徴です）。

なお、この地震の半年前の3月4日と5日に、鳥取地震とほぼ同じ場所で、いずれもM6.2の地震が発生しています。

【注：被害等は、地震本部：「中国・四国地方の地震活動の特徴」より】



震央分布図（1919年～2022年）
図中の青細線は、地震本部による活断層